

新役員よりご挨拶

神奈川県皮膚科医会 第7代会長に就任して

会長 鎌田英明



この度、3月の幹事会においてご推挙いただき、栗原誠一前会長の後の第7代神奈川県皮膚科医会会長を仰せつかりました。

50年近い歴史を誇り、かつ日本中に名前が轟くこの神奈川県皮膚科医会の会長をお引き受けすることは、大変な名誉であるとともに、浅学の身としてはその重圧もまた並大抵のものではありません。

私が神奈川県皮膚科医会の会員となって、早いものでもう24年になりました。最初のころはあまり褒められた会員でなかったことは、既に幹事長になった時のご挨拶で述べましたが、そのころと比べ曲がりなりにも医会活動に参画させていただくようになってからは、多くの先生方との知己を得られたこともあり、周囲とのつながりにも歴然とした変化が見られます。

この「神皮」の創刊号に、加藤安彦元会長が書かれておられるとおり、「出身校にこだわらない、地域や立場を超えて、大変和やかな雰囲気のもとにみなで勉強してゆくという気風」これこそが、神奈川県皮膚科医会をこれまでに発展させてきた礎になっているのではないかと思います。神奈川県においては私の母校である日大出身者は少数であり、関連病院も少なく、最初の頃は病院の名前を言っても「どこにあるの?」という反応でしたが、最近は「ああ、中華街が近くていいですね。」という反応に変わってきました。

とかく学会の懇親会などでも、同窓がグループを作ってまとまる光景を眼にしますが、神奈川県皮膚

科医会においては出身校の垣根はかなり低いものとなっており、そのお陰もあって私ごときが会長を仰せつかったわけですが、今後もこの伝統は継承していくべき大きな財産だと考えています。

もう一つは、良い意味でのフエジーさといいますか、自由さも神奈川県皮膚科医会のひとつの伝統ではないかと考えます。50周年、150回に近づいている年3回の例会も、担当が決まりテーマの選択という段階では担当幹事の自由な発想に任せられ、これはどうなのかなと思われるテーマであっても、決して即座に否定されることはなく、それを実現するためにはどうしたらよいかという方向にまず話が進んでいきます。その後の何度かの話し合いの中で例会の中身が練られていく、これもすばらしい伝統の力だと思います。

しかし、こうした伝統の踏襲だけに甘んじてばかりいる訳にもいきません。医会が設立された50年前は当然のことですが、この20年、いや10年を見ても医会を取り巻く環境は大きく変化してきています。これまでの形式での医会運営ができなくなっていることも事実です。この辺りで少し見直しを図り、次代の先生方にもこのよき伝統を少しでも多く継承できるよう、会員の皆様のお力添えもいただいで、微力ながらも貢献できればと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

これからもみんなで、楽しみながら「神皮」を一緒に作っていきましょう！

副会長として 2012

副会長 増田智栄子



いろいろな方から「先生は神皮の何だったっけ」とよく言われます。「すみません、副会長をしています」と答えています、やっぱり全く存在感がないかなと落胆するものの、「ま、空気みたいに神皮になじんで誰も違和感を持たないのかも」と開き直すようにしています。

平成12年、原会長の時に副幹事長に就任して2年、菅原会長の時に4年、栗原会長の最初4年は副幹事長、次の2年は若返り人事で副会長になり、通算12年間執行部にいます。

「何してきたんだろう」と振り返ると、最近は何もしていませんが、確かに初期は栗原先生と一緒に神皮のシステム作りに奔走してきました。

まずは在宅医療。平成8年に在宅医療検討委員会準備会を開催し、往診についてのアンケートや往診医リストの作成を行い、当時はネットもなく全て封書で県全域の1,000件余りの訪問看護ステーションや介護施設に皮膚科往診医リストを送り、往診幹業務もしました。平成10年の第3回在宅医療勉強会から今の形のコ・メディカルも交えた定期勉強会になり、今では200名近く参加する会にまで発展しました。

次に、健保委員会。これも「開かれた審査」にしようとする当時の栗原幹事長が企画して平成14年私が委員長を務めた時から、年3回、例会前に社保・国保の審査委員が集まって、審査の公平性や周知事項などを協議する委員会を定期的に開催するようになりました。以後、健保委員会の存在意義、審査の透明性は高くなったことと思います。

その後、平成17年にJoy Derma Clubの設立にも

参加してきました。女性ならではのきめ細かなアイデアで、神奈川県皮膚科医会を盛り上げ、皮膚科の発展に貢献するという趣旨で野村先生を中心に立ち上げました。「洗う」「肌に触れるもの」「髪と頭皮」「爪の病気、爪のケア」などをとりあげ、衣類の洗剤や顔の洗浄のこと、衣類の皮膚への影響、女性の脱毛、巷のネイルサロンで行っている施術などいつもの学会とは違う視点で勉強し、日ごろの診療の参考になり、そして自分自身の生活にも役立っています。

また、女性同士で気軽にお話ができ女医のコミュニティの場としての存在意義も大きいと思われます。

さて、今回、鎌田会長から副会長に留任してほしいと依頼を受け、受諾しました。

神奈川県皮膚科医会は、先人の先生方が創意工夫努力をされて、全国でも一、二を争う充実した地方発信皮膚科医会組織となりました。ご講演頂く先生がたが一樣にして「レベルの高い神奈川に来まして怖いです」と枕詞のようにおっしゃいます。レベルの高さを維持するのは容易ではありません。そのためにも、興味をそそる例会勉強会の企画やサーベイランスの集積、地域への医療の啓蒙、発信などはもちろん大切ですが、一番は会員個々の「患者さんのために良い皮膚科医になろう」という意識がもたれていると思います。「良い皮膚科医」になるために神皮を利用して下さい。神皮の中に入って一緒に活動して下さい。そして一緒に遊んで楽しみましょう。

最後の1期2年、副会長として母親のような役割ができればいいなと思っています。医会の活動が円滑にまわるよう頑張ります。よろしくごお願い致します。

副会長を、また務めさせて いただくにあたって

副会長 浅井俊弥



みなさまもご承知の通り、先月、博多で開催された日臨皮総会で、平成26年の第30回臨床学術大会の会頭に、当医会の栗原誠一先生が選任されました。これまでも日臨皮や日皮東京支部で、たばこと皮膚、common skin diseaseなどのシンポジウムを企画、運営し、博多でもサーベイランス委員会の高須博先生が、会員アンケートをもとに集計した結果を発表し、ポスター賞の銀賞を受賞するなど、神皮は学術グループとしての存在感を示してきました。その集大成ともいえるこの機会を、神皮会員の力を結集して、楽しく、実りのある会にしたいと思います。間際にならないとなかなかエンジンがかからない性格の私は、まだピンとこないのが正直なところですが、2年先とはいえ、月日のたつのは早いものです。心してサポートしたいと思っています。

さて、2期目の副会長を務めさせていただくにあたり、栗原先生、鎌田先生にそれぞれエールを送りたいと思います。

栗原先生、お疲れ様でした。長い歴史のある医会で、今までの経緯や医師会との連携、会をお世話する立場としての考え方など、細かいところにまで目を配り、かつ、「楽しむ」という一貫したコンセプトでわれわれの支えになって下さいました。これからは、第30回日臨皮総会の会頭として、煩雑なことが多くなると思いますが、神皮のみでなく、全国の皮膚科医を、楽しませて下さい。きっと、盛会になると思います。またその際、先生のご発案である「皮膚科の signs and symptoms」を書物にすること

を、是非実現させたいと思っています。色々とアイデア、ご意見を下さい。よろしくお願ひいたします。

鎌田先生、はりきっていきましょう。日臨皮の常任理事会でもご一緒させていただき、色々とお話する機会が多いのですが、栗原先生同様、いつも隅々まで見渡し、迅速な対応をされる先生のお仕事ぶりには、頭が下がります。増田智栄子副会長との両輪で、神皮、ならびに、日臨皮30回総会のため、先生にご負担がかかりすぎないように、力をお貸しできればと思っています。よろしくお願ひいたします。

会員の先生方。会長が替わっても、神皮の基本的なコンセプトは変わりません。今後も、参加して楽しかった、よかった、というイベントになるよう、みんなで意見を出し合い、例会や勉強会を盛り上げていきましょう。鎌田会長、増田副会長、そして私、川口幹事長、さらには常任幹事の先生方は、全員、話しやすいキャラですので、どんな小さな提案でも結構です。ご連絡をお待ちしています。

賛助会員の皆様。これまでも多くの経済的、人的なご協力をいただきまして、心から感謝いたします。申し合わせや規約等で、おつきあいの仕方が難しくなっていることは承知しておりますが、皆様のご協力なしでは、会の運営は成り立ちません。お願いばかりで申し訳ありませんが、なにとぞよろしくお願ひいたします。

最後に、みんなで、円陣を組んで、「神皮！ ファイト！ オウー！」

幹事長になってしまいました…

幹事長 川口博史



少し前に鎌田先生から「もしも私が会長になるようなことになったら先生に幹事長をお願いするから」といわれ固辞していたのですが、何度か説得されて結局お引き受けすることにしました。と、こんな文章どこかで見た覚えがあるぞと思い調べてみたら、神皮14号（2007年3月発行）の24ページ、鎌田先生の幹事長就任挨拶文でした。私もまったく同じ思いで、神皮14号24ページをそっくりそのままコピーして私の挨拶文にしたいくらいです（笑）。タイトルも同じなので区別のために「…」をつけてみました。6年前に同じような思いで幹事長になられた鎌田先生が今は会長なので、きっと優しくサポートしてくれるはず、と信じて幹事長を務めさせていただきますのでどうかよろしくお願いします。

幸いなことに私は企画委員、編集委員長などをやらせていただきましたし、2年前から副幹事長を務めさせていただいていますので、例会の準備にかかわること、神皮や名簿の作成、会計監査など医会の全体の流れをなんとなくは理解しているつもりでしたが、いざ自分でやらなければならないとなると、医師会やいろいろなメーカーとの細かい折衝や調整、他の医会との連携、情報交換などまだまだわからないことだらけで不安ですが、せっかく会長が直々に幹事長に指名してくださったので会長に恥をかかせないよう務めさせていただきます。

鎌田会長のお考えによれば、歴史ある医会の伝統を継承しつつ今の時代にあった形に変えられるところは変えたいとのことです。皮膚科医の果たす役割も時代とともに変化していきますので、それに合わ

せて各種委員会の再編などを手掛けていくことと思います。また鎌田会長は日臨皮副会長という肩書もお持ちです。ちょうど私は日臨皮の神奈川県支部長ということもあり、医会と日臨皮神奈川県支部とのいい意味での調和も大切な課題かと思っています。神奈川県皮膚科医会は日臨皮よりもはるかに歴史も古く会員も多く、そして出身大学や年齢にとらわれない自由な会です。そんな医会の歴史、楽しく勉強する風潮を残しつつ、日臨皮ともうまく共存共栄できるような道筋ができるよう頑張っていきたいと思いません。

私自身と医会との関係を思い出してみると大学時代、加藤安彦先生や故内山光明先生、杉本純一先生、石井則久先生たちに誘われ、いわれるままに例会に参加してもしかしたらその場で入会していたのではないのでしょうか？神奈川県で皮膚科医をやる限りは神奈川県皮膚科医会に入会するのが当然だ、というような雰囲気だったかもしれません。はじめの頃は自分の都合で適当に参加しただけでしたが、大学以外のいろいろな先生方とも接点ができてきて、参加することが徐々に面白くなってきました。それが幹事になり（させられ？）、例会を担当し、委員会を任せられ、いつの間にかいろいろな会議に出席するのが半ば義務づけられてしまいました（笑）。幹事長として自分がどれくらい医会に貢献できるのかはなはだ不安ですが、新執行部の才能豊かな先生たちと鎌田チルドレンとして医会を盛り上げていきたいと思いません。どうぞよろしくお願いたします。